

## 抄 錄

Beiträge zur klinik der Tuberkulose Bd. 77, H. 3. 1931.1. Dr. Genter 氏ノ Antiphthisin ニ就  
テノ觀察

Otto Bredner. (grabowsee): Beobachtung über Antiphthisin. (Dr. Genter.)

1930年6月以來 grabowseeノ治療所ニ於テ genter 氏ノ創成ニカ、ル結核治療劑 Antiphthisin ノ追試ヲ行ツタ。本劑ハ Campherolivenöl(20%), Geosot(20%), Latschenkieferröl(2.5%), Eukaliptusöl(2.5%)及ビ肝油ヨリ成ル。非特殊製劑テ年齢、病期、性別等ヲ考慮耗宛ヲ、1週3回臀筋内ニ注射スル。局所ニハ膿瘍、シテ本劑ノ大凡1硬結等ヲ生セズ又不快ナル副作用モ認メラレナイ。注射後一般ニ患者ハ爽快トナリ食欲ハ亢進スル。併シ乍ラ喀痰量、白血球像、赤沈反應、胸部所見ニハ著シイ變化ハ認メラレナイ、體重ノ増加モナイ。(池上抄)

## 2. 結核性淋巴腺腫ノ發育法則ニ就テ

Karczag, L. (Budapest): Über das Wachstumsgesetz der tuberkulösen lymphome.

結核性淋巴腺腫ノ發育速度ヲ數學的ニ説明ス。(池上抄)

3. 右側肺臟肋膜ノ壁石灰化ヲ伴ヒタル  
皮膚瘻囊腫

Otto Steinmeyer, (Görbersdorf): Eine Dermoid-Cyste mit Wandverkalkung der r. Pleura pulmonalis.

49歳ノ患者テ臨牀的ニ結核性腦膜炎、兩側ノ血行性ニ生ジタル肺結核症、右胸中野ニ於ケル腫瘍、ト診斷サレタモノデア。死後剖見ニヨリテ此ノ腫瘍ヲ檢スルニ夫レハ肺臟肋膜ノ上ニ生ジタル肺臟外ノ皮膚瘻囊腫テ其ノ包膜ノ一部ハ既ニ石灰化シタモノデアツタ。(池上抄)

## 4. 空洞ノ治癒

Albert, A. (Baden-Baden): kavernenheilung.

5. 結核ノベンチノール治癒價値ニ關ス  
ル提言

Jonaš, Kairiukstis. (Kalvarija): Einige

Bemerkungen über den Wert der Benzinol-behandlung der Tuberkulose.

ベンチノール (ベンゼンヲオレーフ油ニ30%ニ溶解シタモノ)ハ病竈反應ガ強イノテ滲出型ノモノ及ビ高熱テ進行シツ、アルモノニハ使用シナカツタ。混合型テ空洞ヲ伴ハザル結核及ビ外科的結核ニ對シテハ成績ガ良好デアツタ。(池上抄)

6. ザウエルブルッフ、ヘルマンズドルフェ  
ル氏ニヨル肺結核患者ノ減食鹽榮養療  
法ノ成績

Münchbach, W. (Baden): Ergebnisse der kochsalzarmen Ernährungsbehandlung nach Sauerbruch-Herrmannsdorfer bei Lungentuberkulösen.

方法ハゲルソン氏食餌ニ依ラズヘルマンズドルフェルニ從ヒ58名ノ中等度重症及ビ重症患者ニ就テ本試験ヲ行ツタ。平均治療期間ハ4.4ヶ月最長11ヶ月デア。結果ハ良好ナモノデアナイ。體重ハ從來漸増ノ傾向アリシ者ノ本法施行後尙ホ増加シタモノ38名停止ノモノ、増7名、及從來増加ノ傾向ヲ示シオリシモノ、減トナリシモノ8、停止ノモノ、減1名、減ノモノ、減1名、不變1名デア。赤沈反應ハ一般ニ速クナル。喀痰内結核菌ノ消失シタモノ6例(20%)併シ之ハ全體ノ患者テ消失シタルモノ35%アルニ比スレバ少ナイ。本法施行前ニ陰性ノモノガ施行後陽性トナツタモ3例。肺所見、及ビ人工氣胸治療中ニ出現シタ肋膜腔滲出液ノ増減ニ對シテハ著シキ變化ヲ與ヘズ、狼瘡ハ症例ガ少ナイノテ決定的ナ事ハ言ヘナイガ本療法ヲ施行中新タニ生ジタルモノモアル。咽頭結核ニ就テモ價値ヲ認メ得ナカツタ。又咯血スルモノ多ク、咯血ノ危険アルタメ臥牀安靜ヲ命ジ本食餌ヲ用ザリシ57名中3名咯血アリシニ比シ本食餌ヲ用ヒシモノハ7名中6名咯血シタ。

## 7. 肺膨脹不全ノ1例ニ就テ

Adorf, Hartung. (Sülzhayn): Über einen Fall von Lungenatektase.

肺結核患者テ左肺下葉ニ肺膨脹不全ヲ起シタ1例ニ就キ四葉ノレ線寫眞ヲ添ヘテ其ノ臨牀の所見ヲ詳細ニ報告ス。廣汎ナ部位ニ互リ理學の所見ヲ突然生ジタニモ拘ラズ、患者ニ強キ病感ヲ來サズ、而シテ氣管枝ヲ閉塞シテ本症ノ原因トナツテキタ肺ノ壞死ガ喀出サレルト共ニ舊ノ狀態ニ復シタ。(池上抄)

### 8. 畸形肋膜滲出液

Wolf. J. E. (Davos): Die reitenden Pleura-Exsudat.

畸形肋膜腔滲出液トハ全クレントゲン學的ニ付ケラレタモノテ Brauer, Spengler 以來人工氣胸ヲ行フモノ、間ニ認メラレテ來タモノデアル。之ノ成因ハ人工氣胸ノ後ニ肺下葉ガ擴張スルカ又ハ下葉ノ周圍ニ癒著ガ出來テ其ノタメニ滲出液ガ其ノ上部即チ橫隔膜ノ直上テナク下葉ヲ介シテ其ノ上部ニ滯留スルタメレントゲン透視或ハ寫眞ニヨリ、滲出液ノ底部ガ肺野中ニ明瞭ニ現ハレテ來ル。レ線透視時ニ患者ノ體位ヲ種々ニ變化セシメル時ハ診斷ハ容易トナル。若シ又困難ナル場合ニハ20 毫程ノリブヨドールヲ肋膜腔内ニ注入スル時ハ診斷容易トナル、尙ホ著者ハ數葉ノ寫眞ヲ示シテキル。(池上抄)

### 9. レントゲン像ニ於ケル石灰化セル腸間膜淋巴腺ノ頻度ニ就テ

Herbert Oehningen. (Hamburg): Über die Häufigkeit verkalkter Mesenteriallymphknoten im Röntgenbilde.

著者ハ Prof. Hegler ノ指導ノ下ニ臨牀の材料ニ就テ腸間膜淋巴腺ノ石灰化ノ頻度及ビ原發性腸結核ニ就テ調査ヲ行ツタ。此ノ目的ノタメニ360 枚ノレ線撮影ヲ行ヒ60 例(16.67%)ニ石灰化セル淋巴腺ヲ認メタ。男女別ニスレバ男子60%、女子40%デアル。年齢ハ15 歳乃至30 歳ノモノガ最も多イ部位ハ廻盲部ガ最も多ク著者ノ例テハ2/3 ガ此處ニ存スル。原因トシテハ結核ニヨルモノガ大多數テ「ランケ」ノ所謂初期變化群ノ淋巴腺竈ニ屬スルモノガ多イ。從ツテ之ハ結核ガ腸ヨリ入ツタ事ヲ示スモノトナル。症狀ハ種々テ非特異的デアル。尙ホ症狀ヲ現ハシタモノハ13.3%デアル。(池上抄)

### 10. 肺結核ニ對スル「インフルエンザ」ノ影響

Sándor Puder. (Budapest): Einfluß der Influenzaerkrankung auf die Lungentuber-

kulose.

1929 年ノ流行性感冒ハ著者ノ療養所ニ於テハ比較的輕微デアツタ。即チ703 名患者中感冒ニ罹ツタモノハ78 名(11%) テ之ヲ従業員(健康者)200 名中罹患シタモノ47 名(23.5%)ニ比スレバ遙ニ少ナイ。患者ハ數例ニ於テ合併症モアリ死亡例モアツタガ一般ニハ合併症ナク輕微ナ性質ノモノデアツタ。健康者テ流感ニ感染後結核トナツタモノハナイ。患者ニ罹患率ノ低カツタノハ感冒流行當時外部ノ接觸ガ禁セラレテキタタメニ防衛サレタタメデアラウ。(池上抄)

### 11. 肺結核ノ外科治療ニ就テ

Denk. W. u. Domanig, E. (graz): Zur chirurgie. der Lungentuberkulose.

著者ハ1919 年乃至1930 年ノ期間ニ305 名ニ行ツタ肺結核ノ外科の各種治療(胸廓成形法、充填法、橫隔膜、神經捻除法、及ビ夫等ノ合併法)、ノ成績ヲ詳述ス。其ノ要點ヲ摘録スレバ次ノ如シ。

- (1) 全成形法ノ適應症トシテハ主トシテ一側性ノ結核症ノ場合デアル。禁忌症トシテハ全身狀態ノ甚ダシク不長ナモノ心臓機能ノ衰ヘタルモノ、速ニ進行スル滲出型結核殊ニ乾酪性肺炎、數多臟器ニ疾患アルモノ、兩側腎臟結核、重篤ナル「アミロイドーゼ」他側肺ニ氣腫。疾患アルモノ及ビ60 歳以上ノ老人等、
- (2) 脊椎側肋骨切除ハ其ノ切除部分ノ長サニ比例シテ胸廓ノ縮小モ大デアル。切除スベキ肋骨ノ長サハ空洞ノ位置、大イサヲ考慮シテ行フベキデアル。
- (3) 全成形術ヲ行フ際ハ常ニ2 回ニ互ツテ行フベキデアル而モ其ノ際下方ヨリ順次上方ニ向ツテ切除シ第2 回目ノ施術ニ際シテハ前回切除ノ部分ノ肋骨斷端ヲ再ビ切除シ成ル可ク肺虛脱ヲ均等ナラシム。
- (4) 局所麻酔ノ外ニ淺イ全身麻酔ヲ施シタガ有害テハナカツタ。
- (5) 成形術ニ對スル最も多キ合併症ハ循環系統ノ機能不全テ之ニ次テ肺炎及ビ結核性播種デアル。又晚發合併症トシテ第一肋骨斷端ニヨル上脘神經叢ノ壓迫症狀ガ稀ニ見ラレル。
- (6) 持續效果ハ病竈ノ狭小サレタ程度、他側ノ狀態、及ビ罹患ノ廣サ等ニ關係スル。後療法ヲ永ク而モ適當ニ行ヘバ成績ハ良イ。
- (7) 全成形術ニヨリ效果不十分ナリシモノニハ補足手術ヲ行ツタ。全成形例、補足例合セテ175 名デアル。術後ノ死亡ハ右側ニ行ツタモノニ多イガ晚期死

亡ハ左側ニ行ツタモノニ多イ、術後死亡 23、晩期死亡 37 即チ、通算スレバ 175 名中 66 名ノ死亡 (37.2%) テアル。治癒 55 (39.5%)、輕快 21 (15.1%)、不變 8 (5.7%)、<sup>1</sup>其他ハ觀察期間尙ホ短キモノ及ビ問合せニ對シテ解答ナキモノテアル。

(8) 膿氣胸ニ成形術ヲ施シタモノ 17 例。成ル可ク速ニ施術シタ方がヨイ、成形術ノ前ニ膿胸ヲ切開スルコトハ後來ノ創傷治癒ニ對シテ妨トナル故ニ嚴ニ避クベキテアル。先ヅ穿刺ニヨツテ排膿シ下熱スルヲ俟テテ施術スル。施術ハザウエルブルツフニヨル方がヨイ。

(9) 肺上野ニ病竈アルモノハ第一乃至第八肋骨ヲ切除シ之ニ横隔膜神經捻除ヲ併行シタ、此ノ場合「パラフィン」填充法ハ満足スベキ結果ヲ與ヘナカツタ。填充法ノ缺點ハ「パラフィン」が自ラノ重量ニヨリテ下降シ、空洞ヲ壓迫スルコトが不充分テアルコト及ビ豫メ肺剝離法ヲ行フ必要アルタメ肺ヲ損傷スル危険

ノアルコトテアル。

(10) 横隔膜神經捻除ハ 142 名ニ就テ行ツタ<sup>2</sup>が本法ヲ單獨ニ施行シタノハ 76 名テアル。本法ハ他ノ虚脱療法ト同様ニ肺ノ虚脱ヲ來サシメ病勢ヲ輕快セシムルガ、持續的ノ效果ヲ求メ得ナカツタ。本法ハ獨立手術トシテ行フヨリモ寧ロ肺上葉成形術ノ前處置トシテ行フベキモノテアル。尙ホ本法ハ他ノ神經ヲ損傷スル危険アル故ニ經驗アル外科醫ニヨリテ施行サルベキテアル。

(11) 重篤ナ結核テ他ノ虚脱療法ノ不可能ナ場合ニハ横神捻除ハ有效テアル、又輕微ナ新鮮ナル結核テハ本法ト人工氣胸ヲ併行スレバ良好ナル結果ヲ得ル。

(池上抄)

### 12) 血行性肺結核症

Ulrici, H.: Die haematogenen Lungentuberkulosen.

## Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 58, H. 4. 1930.

### 1. ミュンヘン大學ニ於ケル第二學期レントゲン序列透視

B. Kattentidt (München): Das zweite Semester Röntgenreihendurchleuchtung an der Universität München.

München 大學ニ於テハ 1929 年 5 月 1 日以降。新入學者ニ對シテ義務的ニ「レントゲン」透視検査ヲ負荷セリ (Z. Tbk. Bd. 52, H. 4). v. Romberg 教授ニヨリテ支持サル。第一學期 (夏期學期) ニ行ヒタル 2296 名ノ検査報告ハ Z. Tbk. Bd. 55, H. 3. ニ掲載セリ。本報告ハ前回ニ引續イテ行ヒタル第二學期 (冬期學期) ノ成績ニシテ、人員 2540 ナリ。(男 2062, 女 478)。開性肺結核症 0.31%、閉性活動性 0.12%ヲ發見シ、治癒セルモノヲ合シテ結核性病變ヲ 14.4%見タリ。前學期ト合シテ 3954 名ノ男學生 (20—30 歳) 中間性患者 0.46%ナリ。之ヲ Kayser-Petersen 氏 (1190 名中 5) Wiewiorowski 氏 (6513 名) ノ男學生中 30 = 0.46%、20—30 歳) ト比較スルニ殆ド一致セリ。猶著者ハ上記ノ開性例中ノ 11 名ノ臨牀所見ヲ記載シ、<sup>1</sup>レ寫眞ヲ示セリ。次ギニ全結核性諸病變ヲ年齡別ニ觀察セル成績ヲ列擧シ、最後ニ München ニ於ケル序列透視及ビ健康保護ニ關スル實施上ノ形式、費用學ヲ述ブ。

(岡抄)

### 1. ミュンヘン大學ニ於ケル序列透視ヲ基礎トセル結核救護法ノ整備ニ就テ

Gustav Baer (München): Zum Ausbau der Tuberkulosefürsorge auf Gound der Reihendurchleuchtungen an der Univerrität München.

上記 Kattentidt ノ成績ヲ基礎トシテ結核保護法ニ加ヘタル考察ナリ。著者ハ文明人ノ結核感染ハ 30 歳ニシテ全體ニ互ルトノ考ヘラ有シ、結核發病豫防ニ留意シ、之ニ關シテ注意スベキ種々ナル狀況ヲ列擧セリ。發病ノ要約ヲ 1、感染、2、體質、3、狀態ノ三ニ分チ、感染ニ就テハ恒久性感染 (Dauerinfektion) ノ最モ危険ナルコトヲ述べ、體質ニ關シテハ研究ノ不足ヲ訴ヘ、特ニ年齢ト抵抗トノ關係ヲ顧慮セリ。狀態トハ社會的狀態ノ意ニシテ、社會一般ノ衛生施設ト個人ノ生活程度トヲ含メテ思考セリ。著者ハ人間 30 歳迄ハ連續的検査 (Serienuntersuchung) ヲ行ヒテ、結核症ヲ早期ニ發見シ、治癒セシム可シト主張セリ。最後ニ現今ノ如ク「スポーツ」ノ餘リニ宣傳サレ、強行サレツ、アル時代ニ於テハ早期ニ發見スルト共ニ、運動ヲ禁ズ可キトノ急務ヲ力説セリ。(岡抄)

### 3. 結核驅除ニ對スル人工的氣胸ノ意義

Paul Beeh (München): Die Bedeutung des

künstlichen Pneumothorax für die Tuberkulosebekämpfung.

結核救護所ニ於ケル觀察ナリ。1919—1929ノ10年間ニ人工的氣胸ヲ行ヘルモノ294例(内1927年以降212)。21—30歳154例ナリ。此内129例ハ目下猶施行中ニシテ165例ノ成績ヲ報告セリ。閉性トナレルモノ、63=38.5%。停止性38=22.5%。増悪及死64=39%。此閉生トナルモノ、内42名ハ全ク健康トナレリ。右側127。左側125。著者自ラ行ヒタル47例ニ就テ觀ルニ病變新シキモノニテハ閉性63%。停止性5.5%。増悪及死31.5%ナルニ、新シカラザルモノニテハ32、32、36ノ百分率順ヲ示セリ。一方氣胸ヲ獎メテ承諾セザリシ例36ニ就テハ閉性トナレルモノ8%。停止性33%。増悪及死59%ナリ。故ニ假令絶對的ナラザルモ人工的氣胸ハ救護上必要ナル方法ナリト考ヘラルトナリ。(岡抄)

#### 4. 大動脈ニ破レテ粟粒結核症ヲ來セル内 的淋巴腺性再感染ノ1例。腦栓塞死

L. Bubak (Prag): Ein Fall von endogener Symploglandulärer Reinfektion mit Eimbruch in die Aorta und miliarer Tuberkulose. Tod durch Gehirnembolie.

Ghon 教授ノ教室ノ剖檢例ナリ。55歳、女性、臨牀的診斷、半身不隨、剖檢記事ニ依レバ氣管前淋巴腺ノ一ノ乾酪性病竈が大動脈弓ノ背面ヨリ之ヲ侵害シテ無名動脈基部ニ穿孔破潰セル爲メ、全身性粟粒結核症ヲ起セリ。(岡抄)

#### 5. 喉頭擦過ニヨル結核菌證明

G. v. Hoffner (Beelitz): Tuberkelbazillennachweis durch Laryxabstrich.

喉頭ヲ擦過シテ得タルモノヨリ結核菌ヲ證明セムトスル方法ハBlume(1906, Berl. kl. W.)ガ唱ヘ、其後種々ノ論議アリ。著者ハ1929年以降行ヒタル726例ノ結果ヲ報告セリ。菌ガ喀痰ニ證明セラレタル場合、喉頭擦過ニモ陽性ナルモノ12.5%。陰性21.7%。喀痰ニ陰性ニシテ擦過ニ陽性ナリシモノ3.3%。兩者共ニ陰性ナルモノ62.6%ナリシト云フ。即チ得ル所少シト雖モ試ミテ可ナル方法ナリトセリ。(岡抄)

#### 6. 結核菌ノ非抗酸性型ノ問題ニ關シテ

E. A. Schnieder (Saranac Lake, U. S. A.): Zur Frage der nichtsäurefesten Formen des Tuberkelbazillus.

類「カンフル」物質 Cardiazol 及 Coramin ヲ用ルベノ一氏培地ニ加ヘ(著者ハ Kampfernährboden ト略稱ス)。之ニ菌ヲ培養セルニ非抗酸性型ヲ得タリト云フ。Cardiazol ハ 0.75—1.0%。Coramin ハ 0.3—0.4%ヲ加フ。培養菌ノ混合菌ヲ防グ爲メニ移植ニ先チテ 10% 硫酸ニテ 15 分間處理セリ。其 3 瓶ヲ殖ウ。3 週間後ノ成績ヲ見ルニ人型菌 10 株中發育増進サレタルモノ 6 株。此内非抗酸性型ノ分レタルモノ 5 株アリ。牛型菌ハ 1 株ニシテ、發育促進サレタルモ、非抗酸性菌ヲ分離セザリキ。其原因ヲ結核菌ノ生化學ニ變化ヲ來セルカ、抗酸性ノ發育阻止サレタルカ、非抗酸性型ノ發育促進サレタルカノ何レカナリトス。之レニ依ツテ見ルニ猶他ノ物質ニヨリテ結核菌ノ性状ニ變化ヲ來ス事實ノ可能ナルコトヲ認メタリ。(岡抄)

#### 7. Thuringenニ於ケル小兒及青年閉性結核患者ノ永久隔離ニ關スル經驗ニ就テ

Heinrich Rennebaum (Finneck b. Rastenberg): Über Erfahrungen mit der Dauerisolation offensuberkulöser Kinder und Jugendlichen in Thuringen.

1922 年以降當該小兒治療所ニ收容セル閉性小兒結核症 130 (内 12—15 歳 92 名)。1925 年以降閉性が閉性トナル迄隔離ノ意味ニテ退院セシメザリシモノ 80 例ナリ。其内 45 例ニ 56% ハ閉性トナレリ。之レニ要シタル年限ハ 1 年以上 20、2 年以上 12、3 年以上 3、5 年以上 2 名ナリ。他ノ 35 名ハ死亡セリ。此他ニ閉性トナラザルニ退院シタル 30 名中 19 名ハ既ニ死亡シ、3 名ハ猶加療中ナリ。以上ノ經驗ニ於ケル心理的、經濟的、醫學的諸方面ヲ簡單ニ記載セリ。(岡抄)

#### 8. 結核假面トシテノ胃潰瘍

Rudolf Menzel (Linz a. d. D.): Magengeschwüre als Tuberkulosemaske.

廢兵賠償施行法(Invalidenentschädigungsverfahren)上ノ専門鑑定 2 例ノ報告ナリ。51 及 48 歳ノ男子ガ大戰時、胃潰瘍ノ診斷ノ下ニ戰傷者トシテノ保護ヲ受ケタルモノガ死亡後、遺族ヨリ更ニ引續キ保護ヲ願出テタルニ對シテ、是等ハ何レモ誤診ニシテ、當時肺結核ナリシガ爲メ胃症狀ヲ來セルモノナリトシ、賠償ヲ拒絶セル鑑定理由書ノ報告ナリ。(岡抄)

#### 9. Nr. 4711 錠使用ノ灌水浴器

F. Köhler (Köln): „Kubrrause für Nr. 47

11-Tabletten” Düsseldorf 市 Braunschweig 商會發賣ノ專賣特許浴用藥、Nr. 4711 ヲ以テ灌水浴ヲ行フニ

用ヒラル、新案容器ノ紹介ナリ。(岡抄)

### Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 58, H. 5. 1930.

#### 1. 結核性病機ノ組織發生論ニ於ケル疑義ニ就テ

P. Huebschmann (Düsseldorf.): Zur Frage der Histogenese tuberkulöser Prozesse.

著者が Arnold ト共ニ粟粒結核症ノ病理組織學ニ滲出型ヲ分チ、且ツ從來大體ニ於テ信セラレタル Weigert ノ説ニ反對セル論文 (Virchows Archiv 1927, Bd. 249, s. 165) 及ビ著者ノ著書 Pathologische Anatomie der Tuberkulose, 1928 ニ現ハレタル其考ヘニ對シテ投セラレタル各方面ヨリノ論駁ニ對シテ答ヘタル論文ニシテ、1930年5月 Rheinisch-Westfälische Tuberkulose-Vereinigung 席上ノ講演ニ増補セルモノナリ。

問題ハ大體二ツニ分クル。一ハ粟粒結核症ノ成因ニ關スルモノニシテ、他ハ結核炎症論ナリ。前者ニ於テハ、嘗テ Weigert ガ其成因ヲ肺靜脈内膜ノ結核菌ノ崩潰ニ歸スルニ對シ、著者等ハ之レヲ粟粒結核症ト同一原因、即チ血行性ニ同時ニ起レルモノトナセリ。之ニ對シテ Herxheimer, Schürmann 等ハ Weigert 説ヲ支持セル反對論ヲ出セリ (1929)。著者ハ之レヲ以テ解釋ノ相違トナセリ。何トナレバ著者ノ根據トスル所見ハ何等新シキモノニ非ズシテ、從來 Weigert 説ヲ支持シ來レル所ノモノナリ。即チ Weigert 説ヲ生ゼン所見ハ又同時ニ之レト全ク反對ナル解釋ヲ下シ得可キ材料ナリシナリ。

結核炎症論ニ關シテハ一方 Ricker 及其學派ナル Blumenberg ト、他方 Henke 及 Pagel トニ答フル所アリ。著者ト Ricker トハ全然立場ヲ異ニス。著者ハ形態學の立場ヲ守ルモノニシテ、Ricker ハ其 Relationspathologie ニ現ハレタル思想、即チ神經系ノ機能ヨリテ病變ヲ説明シセムトス。Ricker ガ其原因論 (Kausalität) ノ觀點ヨリ著者ノ所論ヲ目的論的ナリトシ、Vaihinger ノ Philosophie des Als Ob ノ誤謬ナリト攻撃セルニ對シ、著者ハ其然ラザル所以ヲ説イテ Ricker 學派ニ反省ヲ求メタリ。

Pagel ガ著者ノ炎症形式、即チ結核性炎症ハ變性 (Alteration) ニ次テ滲出 (Exsudation) ヲ起シ、其後ニ増繁 (Proliferation) ヲ結果スト主張セルヲ誤リナリ

トシ、結核組織ノ二元論 (滲出性及増殖性) ハ組織病原體反應 (Gewebsvirusreaktion) ノ所産トシテ現ハルトノ所論ヨリ反駁セルニ對シテ、著者ノ所説ノ據ル所ヲ説明セリ (著者ノ單行本參照)。且ツ著者ノ炎症形式ヲ Marchand-Huebschmann トセルニ就テハ、著者ノ舊師ニシテ既ニ故人トナレル Marchand ガ何等此形式ノ成立ニ關與スル所ナシト。舊師ノ爲メニ辯明セリ。且 Pagel ガ著者ノ説ヲ惹イテ諸所ニ説明ニ用ビ、同一著書 (Pagel u. Henke: Handb. d. spez. path. Anat. u. Histol. Bd. III, T. 2, 1930) 内ニテ Henke ト所論ヲ異ニスル所アル爲メニ、同書ノ論述ニ統一ヲ缺ク所アルヲ指摘セリ。又同書ガ Handbuch トシテ Randerath ノ漿液膜結核症ノ研究 (Virchows Archiv 1927, Bd. 266) ヲ文獻ニ加ヘザリシヲ遺憾トセリ。

猶粟粒結核結節ノ組織學ニ就テハ Grethmann ニ答ヘ、輸卵管ノ結核症ニ關シテハ Berblinger ニ釋明セリ。

本論文ハ現時ノ結核炎症論ノ鳥瞰圖ニシテ又著者ノ立場ヲヨリ説明セルモノナリ。同時ニ此論争ハ其後ニ於テモ繼續セラレツ、アルモノニシテ、結核炎症論ニ興味アル人々ノ見逃シ得ザル一文ナルベシ。

(岡抄)

#### 新見地ニヨル眼結核ノ症狀ト治療

Szily, A. (Münster i. W.): Erscheinungsformen und Behandlung der Augentuberkulose von neueren Gesichtspunkten aus

眼疾患トシテノ結核ハ比較的遅ク知ラレタモノテアル。即チ 19 世紀ノ 80 年マデハ、眼ハ結核ニ對シテ免疫性ヲ有スルト考ヘラレテキタ。

眼結核ノ症狀一小兒ノ腺病性眼疾患 (「フリクテン」ヲ伴フ) ハ結核性感染ノ一ツノ現象テアル。今日ニ於テハ此ノ病變ハ結核ニヨルモノテアルカ、又ハ特別ノ體質異常ニ基ツクモノテアルカノ議論ハナイ。即チ之ハ特殊ノ體質ガアツテ、之ニ結核性傳染が起リ、腺病性病變ヲ呈スルニ至ツタモノテアル。又疾病ノ蔓延ニヨリ結核菌性又ハ結核毒素性ニ起ルト考ヘラレルモノテアル。結核性「フリクテン」ハ亦特別ノ結

核「アレルギー」ト想像サレルモノデアアル。春機發動機ハ腺病性症状ヲ沈靜セシメ、脂漏性素質ハ之ヲ開放セシメル要素トナル。後年ニ來ル處ノ角膜疾患即チ後發腺病 Spätskrophrose ハ比較的稀デアアル（之ハ角膜ノ酒査鼻ト誤ラレ易イ）。腺病性眼疾患ハ Rankeノ第Ⅱ期ニ生ズルモノデアツテ、初感染トシテ來ルコトハ甚ダ稀デアアル。虹彩脈絡膜ノ結核ハ屢々小兒ニ起リ、殆ド偏側ニ生ジ失明スルモノデアアル。若年時代ニ腺病ヲ經過シタ者ハ成人トナツテ眼ノ結核性疾患ニ對スル免疫ヲ有スル。

結核ノ第Ⅱ期ニ於テハ尙ホ角膜實質炎、虹彩及毛様體ノ結核、散在性脈絡膜炎等ヲ生ズル。重要ナ疾患ハ若年性結核性網膜脈周圍炎及視神經結核デアアル。

診斷—全身ノ精密ナ検査、胸部「レントゲン」検査、赤血球沈降速度等ノ検査ヲ必要トスル。

療法—「ツベルクリン」療法、之迄眼科テハコノ用量ヲ定メルニ模型の方法カ行ハレテキタ。然シ之ハ個性的治療ヲ行ハチバナラナイ。即チ最初ノ用量ハ個人々々ニヨリ適宜ニ定メ、注意深ク次第ニ増量シテユクデアアル。「ツベルクリン」ニ對スル免疫ト同意義ノモノデアナイ。從ツテ後者ニ對シテハ「ツベルクリン」療法ハ其目的ヲ達シ得ナイ。用フル製劑トシテ眼科醫ハコツホ氏舊「ツベルクリン」、新「ツベルクリン」一菌乳劑、Tebeptin 等ヲ用ヒテキル。然シ Friedmann 氏製劑ハ用ヒラレナイ。尙ホ治療ニ際シテハ強度ノ反應ノ起ル前ニ注意シナケレバ」ナラナイ。之ハ  $\frac{1}{1000}$  mg 舊「ツベルクリン」ニ依ツテ起ル。必要ナ病竈反應ハ最低程度 unter Schwellig 止メナケレバナラナイ。眼結核治療ニ際シテハ「ツベルクリン」療法ノ適應症ヲ決定シナケレバナラナイ。即チ過敏期ノ高度ノ「アレルギー」性多型コ於テハ禁忌デアアル。尙ホコノ療法以外ニ、必要ナコトハ、氣候、「ヴィタミン」豊富ナ食餌等ニヨリ非特殊性抵抗力増進法ヲ施スコトデアアル。尙ホ又境遇ノ改善（眼結核ヲ有スル患者ノ「サナトリウム」モ良イ。光線療法並ニ外科的療法モ試ミラレル。

(黒丸抄)

### 「ツベルクリン」ニ對スル光線ノ影響 (第3回報告)

Fischer, A., und W. Hausmann (Wien): Der Einfluß des Lichtes auf Tuberkulin

紫外線ヲ照射シタ舊「ツベルクリン」液ハ結核「モルモット」ニ皮内反應ヲ起サナイ。同様ニ通常用ヒラレル

量テハコノ「ツベルクリン」液ハ結核「モルモット」ヲ驚スコトガ出來ナイ。然ルニ人體ニ於テハコノ照射シタ「ツベルクリン」ハ尙ホ局部處及全身反應ヲ惹起スル。コノ人體ト動物ニ於ケル反應ノ差異ニ就テ著者等ハ、人體ニ於ケル反應ハ照射シタ「ツベルクリン」ニ於テ尙ホ變化シナイ「ツベルクリン」ガ殘存シテキルカ、又ハ非特異性ノ反應デアルト云ツテキル。(黒丸抄)

### Löwenstein 氏法ニヨル血液ヨリノ結核菌培養成績

Alfred Fischer: Ergebnisse der Züchtung von Tuberkelbazillenaus den Blut nach Löwenstein

著者ハ Löwenstein ノ方法ニ從ヒ、流血中ノ結核菌ノ培養ヲ試ミテ 77 例中 31 例ノ陽性成績ヲ得タ、コノ方法ハ流血中ニ存在セル病原菌ノ直接ノ證明デアアルカラ從ツテ結核症ノ診斷像後ニ關シテハ「ツベルクリン」反應ヲ包含セル他ノ總テノ特異性ノ諸方法ニ比シテ一層重大ナル意義ガアル。

結核症ノ病理學、臨牀、免疫生物學ハ是等ノ新ラシク報告サレタ事實ヲ斟酌シナケレバナラナイ。(柴田抄)

### 早期浸潤ニ對スル人工氣胸療法ノ臨牀的竝ニ社會的成績ニ就テ

Lassen, Marie-Therese (Berlin): Über Klinische und soziale Erfolge der Pneumothoraxbehandlung beim Frühinfiltrat.

著者ハ 40 例ノ Redeker ノ云フ定型的早期浸潤例ニ就テ後觀察ヲ試ミタ。コノ内 3 例ハ著者ノ内科 (II. Inn. Abt. Städt. Krankenh. Moabit, Berlin) ノ患者テ、他ハ外カラ送ラレタ者デアアル。總テノ例ハ少クトモ 2 年間觀察シタ。25 例ハ偏側ノ氣胸ヲ施シタノミテ、7 例ハ橫膈膜神經切除手術ヲ共ニ行ヒ、4 例ハ肋骨切除手術ヲ共ニ行ツタモノデアアル。1 例ハ兩側ノ氣胸ヲ行ヒ、2 例ハ以前ニ化學的療法ヲ施サレタ者デアアル。1 例ハ半年後ニ特發性氣胸ヲ起シテ死亡シタ者デアアル。合併症トシテハ 9 例ガ浸出液ノ滯留ヲ來シ、3 例ハ高熱、6 例ハ乾性肋膜炎、2 例ハ他側ノ肺ニ蔓延シタ。治療成績ハ、治癒又ハ非活動性トナツタ者 27 例、尙ホ活動性ナル者 8 例、死亡 2 例デアアル。他人ヘノ傳染力ニ對スル影響トシテハ、25 例ニ喀痰ガ完全ニ消失シタ。生業能力ヲ有スルニ至ツタ者ハ 27 例、制限サレタ生業能力ヲ得タ者 5 例、生業不可能ナル者 4 例、死亡 2 例、不明 2 例デアアル。

治療効果ハ Katz ノ擧ゲテオル處ノ慢性症ノ 45%ニ對シ、著者ノ早期浸潤例ハ 75%ノ良好ナル成績ヲ擧ゲテオル。

(黒丸抄)

#### 結核患者ノ末梢血液中ノ組織球ニ就テ

Achrem-Achremowitsch, R. M. (Kasan.):

Über die Histioglyten des preipheren Blutes bei der Lungentuberkulose.

著者ハ 100 例ノ結核患者及 22 例ノ健康者ニ就テ、Bittorff 氏法ニヨリ耳翼ノ血液ヲ採取シ、尙ホ指ノ血液モ取り、其血球像ニ就キ檢索シタ。而シテ次ノ如ク述ベテキル。經狀内皮細胞組織ヨリ生成シタ單核細胞ガ代償機能不全ノ結核患者ニ於テ高率ニ現ルトキニハ、多クハ其豫後ガ良好ナル。組織球、嗜菌性大細胞ハ健康者ノ血液中ニ見ルコトハ出來ナイ。若シ組織球ガ現ハレテ來ルトキニハ常ニ不良ナル徵候ナル。著者ハ其ノ擧ゲテオル 2 例ニ於テ組織球ガ 35.0% 及 46.0% 現ハレテキルコトニ對シテハ強毒ノ混合傳染ガ關係シテオルモノト想像シテオル。

(黒丸抄)

#### 喀痰ノ新消毒劑 Manatol

Sütterlin, Theobald (Dessau): Manatol, ein neues Desinfektionsmittel zur Sputumdesinfektion

著者ハ Dessau CH 67 ト云フ名稱ヲ販賣サレテキル manatol ノ消毒作用ニ就テ報告シテキル。Manatol ハ Chlorsubstituierte Phenol 及 Kresol ヲ多價ノ Alkohol ニ溶カシタモノナル。消毒試験法トシテハ、100ccm ノ結核菌ヲ含有スル喀痰ニ等量ノ 5% ノ manatol ヲ混シ、1 時間、2 時間、又ハ 3 時間作用セシメタル後、其混合液ノ 1/3 ヲ取り、之ヲ洗滌シテ遠心沈澱シ、Manatol ヲ除去シタ。然シテ此ノ混合物ノ 1 ccm ヲ Petraghani 培養基ニ接種シ、又「モルモット」ノ腹部皮下ニ接種シタ。其結果培養試験ニ於テハ 3 組ノ實驗共結核菌ハ生エナカッタ。動物試験ニ於テハ、Manatol ヲ 3 時間作用セシメタル場合ノミ結核ガ起ラナカッタ。即チ Manatol ヲ 3 時間作用セシメルト結核菌ハ完全ニ死滅スルモノナル。

(黒丸抄)

### The American Review of Tuberculosis. Vol. XXIV, No. 4. October, 1931.

#### 外科的結核ノ大氣療法成績

William S. Halsted: Results of the open-air treatment of surgical tuberculosis

Allen K. Krause ノ紹介シタル Halsted ノ遺稿ナル。Halsted ハ Trudeau ト殆シド 15 年間協力シテ結核患者ノ治療ニ從事シタルモノニシテ 1904 年迄ニ治療シタル外科的結核患者十數例ノ病歴ヲ紹介シタルモノナリ。當時外科的結核ノ治療法未ダ確立セザル時現今ノ Sanatorium 療法ニ近キ自然療法即チ新鮮ナル空氣、肥胖療法、安靜療法ノ三者ヲ適當ニ按配シテ著效ヲ納メタルモノ、手記ナリ。(寺尾抄)

#### 肺結核ニ於ケル Sanocrysin ノ臨牀的試験

J. Burns Amberson, Jr., B. T. Mc Mahon und Max Pinner: A Clinical Trial of sanocrysin in pulmonary tuberculosis

著者等ハ Sanocrysin ノ結核ニ及ボス影響ヲ見ントシ患者ノ體溫、脈搏、衰弱、體重、咳嗽、喀痰、食欲、睡眠及胸部所見ノ變化等ヲ觀察シ藥品ニヨル有毒影響、検査上ノ所見、腎臟機能等ヲ精査シタリ。其説ク所ニヨレバ Sanocrysin ヲ以テ治療シタル凡テノ患者ハ腎尿管ノ損傷サル、事ヲ示ス。其損傷ハ永續的病

症ナク治癒セルモノハ例外的ニ存シタルノミナリ。痰中ノ菌ノ含有量ノ對照群ニ比シテ Sanocrysin 治療患者ノハ著シキ變化ヲ示サズ。血液ノ變化トシテハ血漿内ノ Protein 及赤沈反應ノ増加ハ結核菌及全身狀態ノ進行的又ハ退行的變化ニ關シテ確實ナル標識ヲ示ス目標トハナラズ。一名ノ Sanocrysin 治療患者ハ致死的黄疸 (fatal icterus) ヲ起セリ。之ハ肝臟實質ノ變性ヲ起シタル結果ナリト解スベキモノナリ。要之結核患者ノ化學的療法ヲ行フ場合ニハ慎重ニ豫備的計劃ヲ建ツルコトハ必要ニシテ且ツ有利ナリ。斯ノ如キ計劃ノ下ニ研究シタルトコロヨリ考フルニ Sanocrysin ハ少量ヨリ次第ニ其量ヲ増シ總量 6.1gm 迄ヲ注射シタルニ 12 例ニ於テ肺結核又ハ其合併症ニ對シテ有效ナリシト認ムベキ事實ヲ發見セザリキ。寧ロ對照ニ比シテ Sanocrysin 治療患者ノ病勢ハ増悪セリ。即之事實ヨリシテ Sanocrysin ハ病勢ヲ惡化セシムルニ與レリト見ルベキモノナリ。コノ影響ハ一部ハ結核菌ニ對シテ Sanocrysin ハ二次的ニ作用スル事アルモ最大ナル理由ハ其自身ノ有スル固有ノ毒性ノタメナリト信セラル。是等ノ作用ハ普通ハ榮養、胃腸機能、體溫、皮膚、粘膜及腎臟ニ及ボモノナリ。

一人ノ Sanocrysin 治療患者ハ肝臓ノ實質性變性ヲ起シ死シタルガ著者等ハ全中毒ニ因ルモノト考フ。即チ Sanocrysin 治療ハ有益ナリトノ斷定的事實ナキ事ト害毒アリトノ積極的事實(其内ノ或物ハ永續ス)ノタメニ Sanocrysin ヲ使用スルコトハ正シカラザルモノト考ヘラル。(寺尾抄)

#### 白人及黑人ノ肺結核ノ Sanocrysin 治療

Benjanu L. Brock: The sanocrysin treatment of pulmonary tuberculosis in the white and negro races

Sanocrysin ハ白人ノ滲出性結核ニ對シテハ著シキ臨牀的效果ヲ示セリ。或活動性結核患者ニ二次的ニ横膈膜神經切斷ヲ行ヒ成功シタル例アリ。Sanocrysin ハ黑人ノ急性滲出性結核ノ進行ヲ妨グル效果ハ全クナシ。兩人種間ノ效果ノ相異ヲ説クニハ或假説ヲ必要トス。(寺尾抄)

#### 地中海熱ト肺結核(誤診二例)

A. Lee Briskman: Undulant fever and pulmonary tuberculosis. A Report of 2 missed cases

著者ハ地中海熱ト肺結核熱トハ混同シ易ク地中海熱ハ血像ニ一定ノ變化アルコト又診斷ニ就テハ皮膚反應ニ價值アルコトヲ強調セントタメニ本報告ヲ草セリ。唯2例ニ過ギザルヲ以テ確乎トシテ結論ヲ述ブル事不可能ナルモ類症鑑別的ニ血球算定ヲ以テ診斷上ノ目標トスベキ事ヲ發見シタリ。疑問ノ場合ニハ皮膚反應ヲ行ヒ白血球增多ノ存否ヲ檢シ淋巴球過多ノ場合ニハ地中海熱ノ可能性ナシ。又生牛乳ノ飲用ノ有無又ハ感染牛豚ニ接觸シタ事ノ有無ヲ精査シ特ニ既往症ヲ嚴重ニ訊テルコトニヨリ兩症ノ鑑別ヲナシ得ルト。(寺尾抄)

#### 結核ニ顯ハル、紫斑

Joseph Greengard: Purpuric manifestation in tuberculosis

第1例ハ急性粟粒結核ニ起リシ紫斑ナリ。剖檢ニヨルニ多數ノ皮内出血及左腦半球上腦膜後ニ多數ノ出血斑アリ。左肺上葉ニ外延的 extensive 乾酪性氣管氣管枝淋巴腺結核ヲ有セル陳舊菌アリ。之ヨリ粟粒性傳播ヲ起シ腦膜炎ノ結果死ス、骨髓ハ自動的 activ ナリ。血像ハ有形體殊ニ thrombocytes ハ著シク減少シ tournquet test ハ陽性ナリ。

第2例ハ慢性結核ノ惡液性紫斑ノ定型的ノモノニ

テ赤血球數ト Haemoglobin 價ハ最後迄比較的高ク thrombocytes ハ消失ノ傾向ヲ示セリ。本例ニ於テモ tournquet test 同様毛細血管ノ損傷ヲ認ム。コノ2例ニ共通シタル點ハ毛細血管ノ損傷ナリ。アル場合ニハ結核ニ於ケル紫斑發現ハ過敏様型アリ得ルガコノ2例共全然 anergy ナリキ。Tuberculin allergy ナキ場合ニ結核ニ於テ過敏性原因ニ因ル紫斑發現アリトハ考ヘラレズ。故ニ著者ハ結核ニ於テハ毛細血管損傷ガ出血發現ノ重要ナル原因ナリト結論セリ。

(寺尾抄)

#### 肺結核ニ於ケル空洞ノ豫後及社會的意義

Karl Fischel: The prognostic and social significance of cavities in pulmonary tuberculosis

過去十年間ニ肺結核發生ノ診斷ノ方法及其經過追跡ノ方法ガ著シク變化シタ。解剖、動物試驗研究室内検査又ハ物理的探究ニヨリ逐次「レントゲン」寫眞検査ガ最良ノ方法タルコトヲ知レリ。之ニヨリ解剖的病態ノ發展ヲ動物體內ニ追及シ得且ツ臨牀上ノ如何ナル手段ニヨリテモ決定シ得ザル小ナル中心竈ヲ film 上ニ容易ニ認メラレ且ツ再發ノ際ノ特有ナル變化ヲ觀察シ得ルニ至レリ。同様ニシテ如何ニ小ナル空洞ヲモ認知スルヲ得ルニ至レリ。最近ノ數ニヨレバ結核症ハ寧ろ急速ニ發展シ進行スルモノナレドモ慢性ノ經過ヲトル如クニ見ユルハ短期ニシテ急性期間ニ肺組織ノ被レル損傷ハ短時間内ニ繕ハザルタメナリトス。サレバ吾人ハ急性ノ exacerbation ノ時期ニ速ニ患者ヲ病院ニ收容シテ組織破壊ノ進マザル内ニ適當ニ患者ヲ處理スベキモノナリ。患者ヲ退院セシムルニハ先臨牀的症候ト研究室内ノ必要ナル検査ヲ行ヒ退院ヲ決定スレドモ臨牀的輕快ト病態ノ解剖的治癒トハ同等ノモノニアラズ。而シテ肺結核ノ經過中肺内膿瘍性空洞ヲ避ケ得ラザル事多ク又組織破壊及薄壁空洞ノ形成ハ之ヲ豫見スル事モ豫防スル事モ能ハザルナリ。肺結核ノ治療ハ或意味ニ於テハ空洞治療ノ範圍内ニアリト云フベシ。(寺尾抄)

#### 肺結核患者ノ tuberculin 過敏ノ變化

Wm. Spencer Schwartz & Fred. H. Heise: Variations in tuberculin sensitiveness in tuberculosis patients.

著者ハ Tuberculin O. T. ト結核菌ノ alcohol 及 ether extract ヲ以テ 0.000,001 ヨリ皮内反應ヲ行ヒシニ

結核菌體ヨリ得タルモノハ O. T. ヨリ強力ナリキ。  
而シテ之ヲ結核患者ニ就キテ施行シタル結果ハ次ノ  
如シ。

單一ノ皮内「ツベルクリン」試験ハ結核菌ニ既ニ感染  
セル事ヲ示スニ過ギズ。單一試験ニヨリテハ肺内病  
竈ノ廣サ又ハ性質及其活動性ニ對シテハ何等信憑ス  
ベキ消息ヲ得ラザリキ。之試験ニヨリテハ Tubercu-  
lin ニ對スル感受性ヲ變化スル事ヲ司配スル要素ヲ  
確メルコト能ハザリキ。

(寺尾抄)

肺結核ノ石灰沈著ニ對スル Viosterol

#### 照射シタル ergosterol) ノ作用

Jacob Kaminsky & Doris L. Davidson:

The effect of viosterol(irradiated ergosterol)

on calcification in pulmonary tuberculosis

照射シタル ergosterol ノ少量ヲ經口的ニ與フレバ肺  
結核患者ノ血清内 calcium ハ濃厚トナレドモ「レント  
ゲン」ニテ證明シ得ル範圍内ニ於テハ血清内 calcium  
ノ増加ハ肺病竈内ノ石灰沈著ノ度合ニ及ボス影響ハ  
云フベキ程ニアラズ。

(寺尾抄)

## 會報並雜報

### ○二月中新入會者

中川 誠一	北海道帝國大學醫學部細菌學教室	阪本 孫重	東京市麴町區三番町12
丸善 書・店	東京市日本橋區室町	植田 三郎	京都帝國大學醫學部微生物學教室
市古 鈞一	東京市外濠ノ川町、内閣印刷局醫局	桑野 圭三	福岡縣津屋崎町自然療養社ホーム内

### ○會員ノ計

下記會員ノ訃報ニ接ス、謹シテ弔意ヲ表ス。

木村 勇

古屋 與三

### ○服部博士特別講演中止

服部貞吉博士ハ「咯血ノ病理並療法」ニ就キテ特別講演ヲセラル、事ニナレリ。  
 演ヲセラル、豫定ナリシモ健康上ノ都合ニヨリ中止

### ○名古屋市長招待會

名古屋市長ハ學會出席者ヲ4月1日夜招待セラル、豫定ナリ。